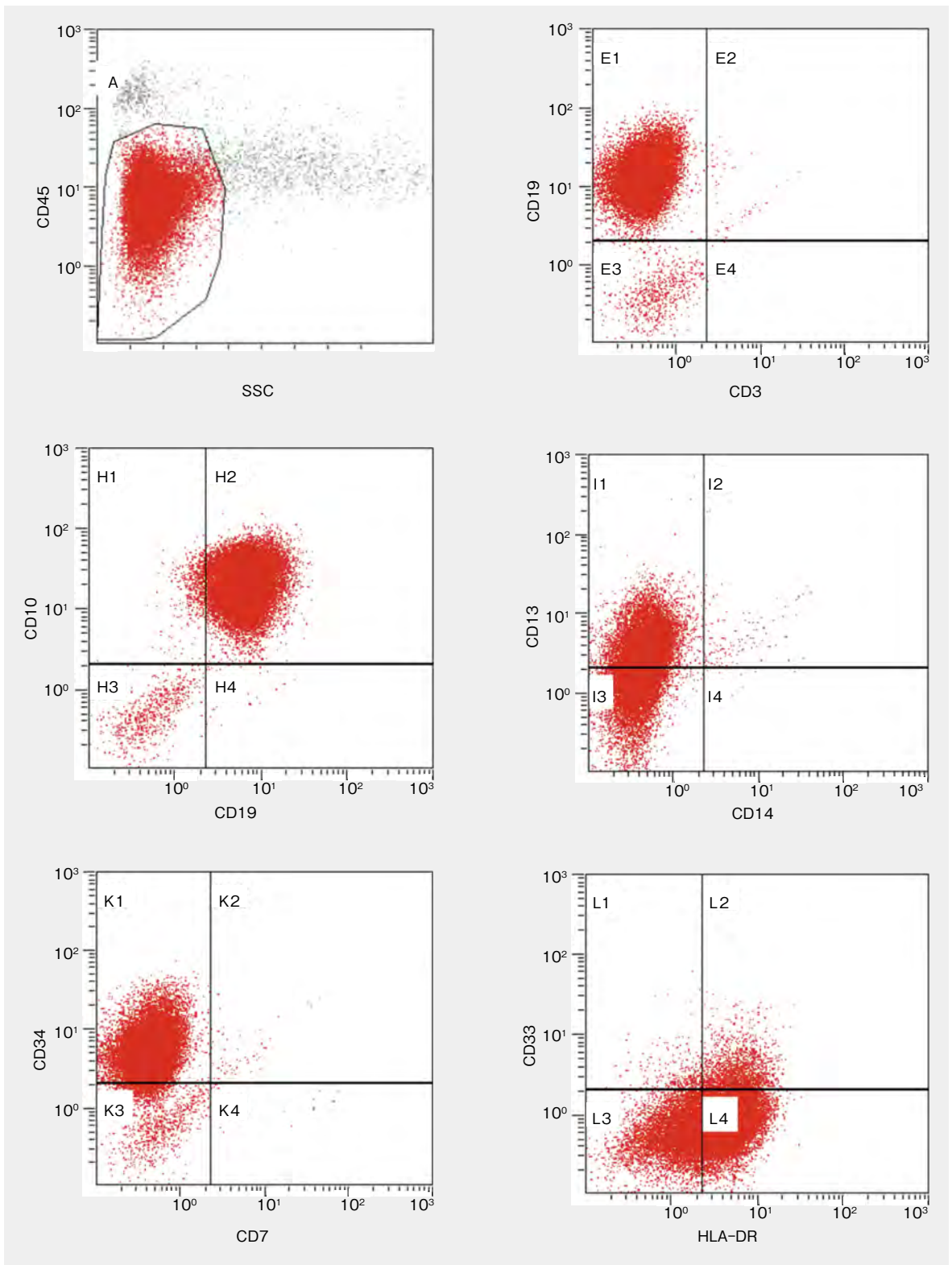


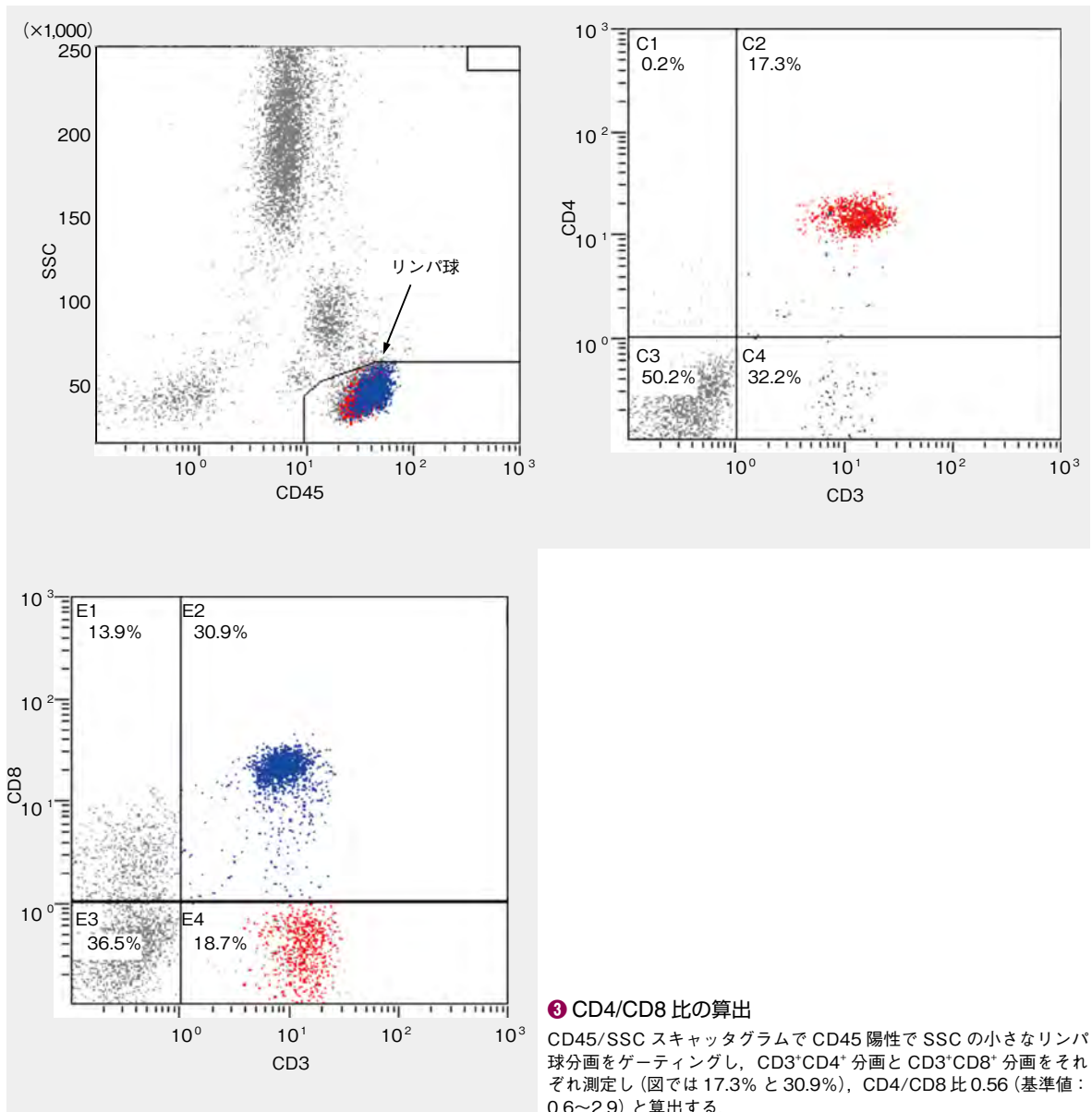
① 急性骨髄性白血病 (FAB分類: AML-M1)

CD45/SSC スキャットグラムで CD45 陰性～弱陽性の細胞にゲーティングし、その細胞集団を解析パネルで解析した。骨髄系マーカーの CD13、CD33、CD117 を示し、骨髄前駆細胞抗原の CD34、HLA-DR が陽性であった。分化した骨髄や単球系で陽性となる CD14 は陰性、リンパ球系マーカーの CD3、CD7、CD19 は陰性、赤血球系マーカーの CD235a も陰性であることから、典型的な AML-M1 のパターンを呈している。



② 急性リンパ性白血病 (B-ALL)

CD45/SSC スキャットグラムで CD45 陰性～弱陽性の細胞にゲーティングし、その細胞集団を解析パネルで解析した。CD10, CD19, CD34 が陽性で、T 細胞系マーカーが陰性であることから、B 細胞系腫瘍が考えられる。B-ALL ではしばしば骨髄系マーカーの CD13 が陽性になるため矛盾しない。示されていないが、細胞質内 MPO, 細胞質内 CD79a や TdT が陽性であり、本症例は B-ALL の診断となる。



③ CD4/CD8 比の算出

CD45/SSC スキャッタグラムで CD45 陽性で SSC の小さなリンパ球分画をゲーティングし、CD3⁺CD4⁺ 分画と CD3⁺CD8⁺ 分画をそれぞれ測定し (図では 17.3% と 30.9%), CD4/CD8 比 0.56 (基準値: 0.6~2.9) と算出する。

(安本篤史, 矢富 裕)